

[4 月度例会] 「伊丹市千僧浄水場施設見学会」

日時：平成26 年4 月10 日14:00～16:30

説明・案内：伊丹市上下水道局浄水課豊福課長及び古川氏

1. 伊丹市の水道概要

伊丹市千僧浄水場は、淀川、猪名川、武庫川から取水した水を原水とし、市内のほぼ全域に1 日90,000m³ の浄水能力で供給をしている。

伊丹市では昭和11 年に水道の給水を開始して以降、拡張を続け、昭和40 年に千僧浄水場を竣工した。これ以降も浄水能力の強化に取り組み、平成17 年から現在のオゾン、活性炭処理をメインとした高度浄水処理を行っている。

2. 千僧浄水場施設見学

浄水処理工程に沿って、施設を見学した。

①着水井、接触混和池

淀川系、猪名川系、武庫川系の各系統から導水された原水が施設に流入する水槽である。各系統の水質等を考慮し、流入量を調整し、利用することであった。

②急速攪拌池、フロック形成池

凝集剤を注入し、原水と急速に攪拌する水槽し、続いてだんだんと攪拌速度を落としながら3 段階でフロックを成長させる水槽である。

③沈殿池

②で成長したフロックを沈殿分離する水槽。沈殿面積を稼ぐため、傾斜板が設置されている。

④オゾン処理棟・粒状活性炭棟

③で沈殿分離した水に、オゾンを注入し、オゾンの強力な酸化力により、難溶解性有機物などを処理する工程である。高度浄水処理の中核を担う施設である。

⑤急速ろ過池

④で処理した水を砂ろ過し、次亜塩素酸ソーダを添加し、浄水処理は完了する。

⑥薬注設備類

凝集剤(硫酸バンド)や消毒剤(次亜塩素酸ソーダ)を貯蔵するタンクや注入するポンプ類である。

⑦排水処理棟

沈殿処理された汚泥は、汚泥濃縮槽でさらに濃縮し、その後、フィルタプレス機によって乾燥処理される。乾燥処理された汚泥は破碎機によって砕かれ、粒状になる。

この汚泥は、市内および市外の園芸用の土として業者が引き取り、再利用されている。

⑧中央監視室

浄水工程の監視を行うコントロール室。

このあと、数多くの質疑があり、活発な討議がなされた。